

慢性尿細管間質性腎炎の医療水準の向上，診断基準，診療ガイドの整備と普及

研究分担者 伊藤 秀一 横浜市立大学 大学院医学研究科 発生成育小児医療学 主任教授
研究協力者 内村 暢 横浜市立大学附属市民総合医療センター 小児科 助教

研究要旨

【研究目的】慢性尿細管間質性腎炎の全国医療水準の向上を目的として、慢性尿細管間質性腎炎の診断基準・診療ガイドラインの作成を目指す。

【研究方法】慢性尿細管間質性腎炎の診断基準・診療ガイドラインの作成を念頭に、慢性尿細管間質性腎炎の全国疫学調査を準備し、実施する。

【結果】慢性尿細管間質性腎炎についての全国疫学調査(1次調査)を開始した。

【考察】今後は全国疫学調査結果の集計・解析を行い、慢性尿細管間質性腎炎の診断基準・診療ガイドラインの作成を目指す。

【結論】慢性尿細管間質性腎炎についての全国疫学調査(1次調査)の調査票の作成と全国疫学調査を実施を行った。

A. 研究目的

慢性尿細管間質性腎炎の全国医療水準の向上を目的として、慢性尿細管間質性腎炎の診断基準・診療ガイドラインの作成を目指す。

B. 研究方法

慢性尿細管間質性腎炎の診断基準・診療ガイドラインの作成を念頭に、慢性尿細管間質性腎炎の全国疫学調査を実施する。

(倫理面への配慮)

研究代表者が所属する北里大学医学部・病院倫理委員長により倫理審査は要しないと判断された。

C. 研究結果

慢性尿細管間質性腎炎についての全国疫学調査(1次調査)の調査票を作成し、全国疫学調査を開始した。

D. 考察

全国疫学調査結果の集計・解析を行い、慢性尿細管間質性腎炎の診断基準・診療ガイドラインの作成を目指す。

E. 結論慢性尿細管間質性腎炎についての全国疫学調査(1次調査)の調査票の作成と全国疫学調査を実施を行った。

G. 研究発表

1. 論文発表

1.石丸 愛, 内村 暢, 只木 弘美, 白井 綾乃, 加藤 愛美, 神山 裕二, 伊波 勇輝, 高橋英里佳,

矢内 貴憲, 本井 宏尚, 塩谷 裕美, 原 良紀, 福山 綾子, 出来 沙織, 稲葉 彩, 大谷 方子, 鏑木 陽一, 伊藤 秀一: 免疫抑制剤の併用により再発なく経過した小児腎限局性サルコイドーシスの1例. 日本小児腎臓病学会雑誌, 36:1-7, 2023.
2. Ogata A, Deki S, Uchimura T, Inaba A, Otani M, Ito S: Multinucleated podocytes as a clue to diagnosis of juvenile nephropathic cystinosis. *Pediatr Nephrol.* 39(2):609-612, 2024.
3. Nishi K, Uemura O, Harada R, Yamamoto M, Okuda Y, Miura K, Gotoh Y, Kise T, Hirano D, Hamasaki Y, Fujita N, Uchimura T, Ninchoji T, Isayama T, Hamada R, Kamei K, Kaneko T, Ishikura K; Pediatric CKD Study Group in Japan in conjunction with the Committee of Measures for Pediatric CKD of the Japanese Society of Pediatric Nephrology: Early predictive factors for progression to kidney failure in infants with severe congenital anomalies of the kidney and urinary tract. *Pediatr Nephrol.* 38(4):1057-1066, 2023.
4. Ohyama R, Fujinaga S, Sakuraya K, Hirano D, Ito S: Predictive factors of long-term disease remission after rituximab administration in patients with childhood-onset complicated steroid-dependent nephrotic syndrome: a single-center retrospective study. *Clin Exp Nephrol.* 27(10):865-872, 2023.
5. Kanamori T, Kamei K, Sato M, Nishi K, Okutsu M, Ishiwa S, Ogura M, Sako M, Ishikura K, Ito S: CD4+ and CD8+ T-lymphocyte numbers as predictive marker of relapse after

er rituximab treatment in childhood-onset refractory nephrotic syndrome. Clin Exp Nephrol. 27(7):622-630, 2023.

2. 学会発表

1. 内村暢, 富樫勇人, 灘大志, 稲葉彩, 伊藤秀一:
当科で小児特発性ネフローゼ症候群に対しリツキシマブ投与を行なった 49 例の遠隔期合併症の検討. 第 58 回日本小児腎臓病学会学術集会, 大阪, 2023 年 6 月.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし